



ウエスティン都ホテル外観



工事概要

現場詳細: ウエスティン都ホテル京都の客室、廊下、朝食ダイニングホール、レストランの個室などを施工
時期: 2020年 期間: 7~8か月 人数: 30~40名

工事部営業課

おの う え けん じ
尾上 賢司さん

職人の皆さんに感謝していること 人員不足による残業と 休日出勤を快諾

私は現場の段取りや、人員・資材の手配などを行っています。この現場はかなり急ぎの工事で、かつ、他の現場でも急を要する工事があり、人数が全く足りていない状況のままスタートしました。工期通りに終わらせるには1日30~40人が必要でしたが、工事開始時には3~4人しか揃っていない状況……。いろいろな人に応援をお願いしたり、職人さんに残業してもらったりしながらなんとか乗り越えた日々でした。皆さんは口では多少文句を言うことはあれど快く引き受けてくださり、2か月間ほど忙しく働いていただきました。おかげで、急ぎの工期にもかかわらず、期日に間に合わせることができたのだと感謝しています。



ウエスティン都ホテル京都 2階オールデイダイニング「洛空」

夏原の 施工事例紹介

Natsuhara construction example vol.2



ウエスティン都ホテル スパ

今回は工事部の尾上さんに、ウエスティン都ホテル京都の施工事例について伺いました。いつもより大きな現場で、人手不足の中繰り広げられた一大プロジェクト。日々人手探しに悩み奔走した、尾上さん、そして職人の皆さんの奮闘ぶりをご紹介します。

苦労したこと 人員確保のため、 同業者に連日電話

いつもより規模の大きな現場だったため、とにかく多く的人员が必要でした。しかし、本来30人いなければいけない現場にもかかわらず、5人しか揃わないという日も多く、必死に人を探したものです。「誰か助けてくれ」と願いながら同業者を探し、30~40社には電話をかけたと思います。現場が予定より早く終了して人手が空くこともあるため、電話で援助をお願いする毎日。同じ会社に50回は電話をかけたのではないのでしょうか。職人さんには「**お前は人を探せ。数を揃えたらなんとかしたる**」と力強く言っていただき、諦めずに人探しに奔走することができました。

こだわった点 頻繁に現場に顔を出すことで品質を維持

突貫で行う工事であり、たくさんの方がいろいろな作業にバラバラに入るため、品質管理をすることが大変でした。通常、現場が順調に機能しているときは、タイミングを見ながら顔を出します。しかしこの工事では毎日違う人が現場を出入りするため、誰がどこかの作業をしているのか、またどのような質、スピードで進められているのかなど、把握できないことも度々ありました。何か問題があればその後の工程や仕上げに影響が出てくるため、**他の現場よりも頻繁に現場に顔を出し、施工がうまく進んでいるか都度確認を行いました。**

職人の皆さんへのメッセージ 支えていただいたことに感謝

現場に顔を出すなどして頑張ったものの、ときには心が折れそうになることもありました。しかし**皆さんから前向きな言葉をかけられ、どうにか気持ちを保つことができました。**あの現場を皆さんと一緒に乗り越えたことが、自分自身の大きな成長に繋がったと思います。職人の皆さんとは、その後もよく一緒に仕事をしています。あのときの経験があったからこそ、「**お前の現場やったら行った**」と言ってくれることも。これからもよろしくお願いいたします。



ウエスティン都ホテル京都 2階オールデイダイニング「洛空」

夏原1年生 木戸さんの 成長記録

入社1年目の木戸さんに、ここまでの成長過程を振り返っていただきました。経験を一つひとつ積み上げながらスキルを磨いてきた、新人ならではのフレッシュな頑張りを感じてください。木戸さんを指導する西浦さんからの応援メッセージも必見です。

現在の業務内容

新しい工場建設の現場で、ボードのカットや貼りの作業を担当しています。

入社当初から成長したところ

ボードをカットするスピードが速くなりました！

正方形などの単純なものだけでなく、複雑な形のカットにも少しずつ慣れてきたと感じています。先輩方の仕事を見て学び、直接アドバイスなどいただきながら、繰り返し作業。その中で自分に合ったやり方を見つけることで、成長に繋がっているのだと思います。

今後の目標

量にも質にもこだわりたい！

作業をスピードアップして、より多くの仕事をこなすこと。また、スピードを意識しつつ、最終的な仕上がりのキレイさにもこだわりたいと思います。



お世話になっている西浦雅季さんへ

2023年12月頃、GSユアサの現場で貼りの作業を1人で任せていただきました。まだ実力不足な面もありますが、自分なりにいろいろなことを考えながら作業する時間をいただけて感謝しています。改善点なども見つけ、良い経験になりました。

夏原の皆さんへ

2024年4月からは早くも2年目となり、新入社員が入ってくることを考えると、自分も一人前の先輩として頑張らなくてはと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

夏原歴20年の西浦さんからメッセージが届きました！

木戸さんの良いところ

愛嬌

皆から可愛がられるタイプです。仕事にもまじめに取り組んでくれています。

木戸さんへのワンポイントアドバイス

あわてず、もっと周りを見て、もう少し早く動いてくれると、もっと良くなると思います。

木戸さんへの応援メッセージ

色々な人の仕事を見て、良いところをどんどん取り入れて、成長してってください。次は後輩も入ってきて、教える立場になります。頑張っ楽しんで仕事をしましょう。



にし 西浦 雅季さん



実録 事故事例 共有

今回の事例で災害にあったご本人より、「私と同じ目にあわないよう、皆さんは事故を防いでください。それが私の願いです」とのメッセージをいただいています。夏原社長より、当時現場で起こったすべてを伝えます。今一度、ご自身の安全意識を見直してみましよう。

事故事例の概要

発生時：2021年4月12日

現場名：大日本印刷京田辺工場改修工事
詳細：作業員が高所作業中、3～4mの高さから墜落し、コンクリートに背中から落下。首の骨と十二胸椎破裂骨折という結果を招いてしまいました。命には別状がなかったものの、3年経った今も後遺症が残っており、現場作業には一生復帰できない体になってしまった事例です。

なつ はら そう すけ
夏原 崇介社長



事例の振り返り

●ベテランゆえの「慣れ」と「過信」

災害にあった作業員は、50代のベテラン。経験豊富ゆえに、安全帯を着用していないことがしばしばありました。私がパトロールしていた際にそのシーンを見かけ、「安全帯をつけてください」と指摘して、そのときにやっと身につけるといった様子。まさか自分が落ちるとは夢にも思っていなかったのでしょう。

しかし、現場ではその「まさか」が発生してしまうのです。この方は、高所から材料を差し降ろそうとしたとき、前方に体勢を崩した瞬間に落下。原因としては、まず落下しかねない作業をしていたこと、そして、何より落ちてしまった場合の最後のストッパーとなる、安全帯を着用していなかったことが挙げられます。

再発防止のために実行していること

●安全帯の絶対着用、現場にいる全員で安全をチェック

最後の命綱である「安全帯着用」を厳格に指導しています。パトロール中も、作業員の着用状況を常に注視。毎月の安全衛生協議会でも、必ず状況を報告しています。また、不安全行動の相互監視も重要なことです。現場にいる仲間同士で、危険な行動をしていたらお互いに注意し合うように伝えています。現在は全員が安全帯をしっかりとつけたうえで作業を行っているため、再発防止を実行できていると評価しています。

現場の皆さんへ伝えたいこと

●若手であってもベテランであっても「まさか」は起こる

現場での事故は、2つ以上の不安全要素（不安全行動・不安全設備）が重なったときに発生します。皆さんにわかってほしいのは「**要素が重なると、どれほどのベテランでも事故に遭ってしまう**」ということです。今回の事例を紹介するにあたり、事故にあった本人と話をしました。冒頭にも書かれていますが、本人からは「私と同じ目にあわないよう、皆さんは事故を防いでください。それが私の願いです」という言葉を語ってもらっています。もし今回のような事故が皆さんの身に降りかかれば、一生働けなくなり、大切なご家族にも影響を与えてしまいます。口を酸っぱくして何度でも言います。**現場での不安全行動はやめて、必ず安全帯をつけてください！**

